青山フィルハーモニー管弦楽団

第 44 回外苑祭コンサートプログラムパンフレット別冊

発行日：2013 年 8 月 31 日
編集・発行：青山フィルハーモニー管弦楽団

■ プログラム

曲目
ワーグナー／楽劇『ニュルンベルクのマイスタージンガー』より第 1 幕への前奏曲
シベリウス／交響詩「フィンランディア」
プロコフィエフ／バレエ音楽『ロミオとジュリエット』より「モンタギュー家とキャピュレット家」

開催日：2013 年 8 月 31 日（土）、9 月 1 日（日）
開場時間：11 時
プレコンサートトーク：12 時 15 分
（ゲスト：流真理子、西拓音［8 月 31 日］、桑野愛［9 月 1 日］）
開演時間：12 時 30 分
会場：東京都立青山高等学校体育館

指揮
流真理子（ワーグナー）、西拓音（シベリウス、プロコフィエフ）

■ コンサートのききどころ

第 44 回外苑祭コンサートは、青フィルの公式の演奏会では初めて演奏される、**プロコフィエフ**の**バレエ音楽『ロミオとジュリエット』より「モンタギュー家とキャピュレット家」**で幕を開けます

4 幕 9 場からなる『ロミオとジュリエット』は、シェイクスピアの戯曲に基づく、プロコフィエフの代表的なバレエ音楽です。

「モンタギュー家とキャピュレット家」は、第 1 幕第 1 場の「大公の宣言」と第 1 幕第 2 場の「騎士たちの踊り」を繋げた曲で、冒頭の不協和音から弦楽器による静謐な和音の推移を 2 度繰り返す「大公の宣言」を受け、陰鬱さと躍動感とが入り混じる「騎士たちの踊り」が続きます。

「今後、ヴェローナの平和を乱す者は極刑に処す」というヴェローナ大公の厳然とした宣言を象徴する「大公の宣言」と、「企業の宣伝にも用いられ、広く親しまれている「騎士たちの踊り」が織りなす豊かな世界をお楽しみください。

2 曲目は、外苑祭コンサートとしては 2000 年度外苑祭コンサート以来、青フィルの主催演奏会を含めても 2001 年の第 16 回定期演奏会以来となる**シベリウス**の**交響詩「フィンラ**

ンディア」が取り上げられます。

1900 年のパリ万国博覧会に際してヨーロッパ各国で公演を行うヘルシンキ・フィルハーモニー管弦楽団の演奏会のために作曲された交響詩「フィンランディア」は絶賛され、シベリウスの名声を一躍高めました。

「フィンランディア」は、金管楽器による重厚な和音に始まり、木管楽器と弦楽器による繊細な旋律を経て、オーケストラ全体による祝祭的な強奏へと展開します。さらに、合唱曲『フィンランディア讃歌』に編曲される、木管楽器による印象深い旋律が登場して劇的な様相を高め、最後に英雄的なコーダによって幕を下ろします。

「フィンランドの魂そのもの」とも評価される「フィンランディア」を青フィルがどのように演奏するか期待されるところです。

3 曲目は、2013 年度の青フィルの年間曲であり、外苑祭コンサートとしては 1999 年度外苑祭コンサート以来、定期演奏会も含めると 2004 年の第 19 回定期演奏会以来の演奏となる**ワーグナー**の**楽劇『ニュルンベルクのマイスタージンガー』より第 1 幕への前奏曲**です。

1845 年に作品を構想し、一時の中断を経て 1861 年に作曲が再開され、1867 年に完成した『マイスタージンガー』は、歌合戦に勝利して親方歌手（マイスター）になることを目指す元騎士のヴァルターとヴァルターを薫陶する親方歌手である靴匠のハンス・ザックスの師弟愛と芸術の革新を縦糸とし、金細工師の娘エーファを巡る市の書記で親方歌手であるベックメッサーとヴァルターの対立などを横糸とする作品です。

壮麗とも豪華とも評されるハ長調の前奏曲は、全曲を貫く全音階やバッハを手本とする対位法など、古い音楽語法が印象的で、トーマス教会でバッハの後継者であるテオドール・ヴァインリヒに師事したワーグナーの音楽的な経験が遺憾なく発揮されています。

「たとえ神聖ローマ帝国が雲霞と消えようとも、ドイツの偉大な芸術は残るであろう」という第 3 幕第 15 場でのザックスの言葉が象徴するように、政治に対する芸術の優越性を説く『マイスタージンガー』の前奏曲は、表面的な古めかしさを超えた革新的で多層的な響きを備えた作品です。

前衛的な語法からロマン派へと回帰したプロコフィエフ、ワーグナー主義者として出発し、独自の作風を打ち立てたシベリウス、ギリシア悲劇という総合芸術を模範とする「未来の芸術作品」としての楽劇の確立を試み、現在に至るまで音楽に留まらず思想、文化、政治、社会などの様々な分野に大きな影響力を及ぼすワーグナーという、19 世紀から 20 世紀にかけての音楽界を代表する作曲家の代表的な作品を青フィルがどのように演奏するか、ご期待ください。

青フィルの情報は下記のサイトで随時ご案内しております。

http://www.geocities.jp/aoyamaphilharmonic/index.html

■ 15 周年を迎えた青フィルの複数指揮者制

今では青フィルの特徴ともなった、1 年間を通して演奏する曲である「年間曲」の制度が確立された 1998 年は、青フィルにとって画期をなす年でした。そして、1998 年 4 月には、青フィルの特徴となる、もう一つの制度が導入されました。「複数指揮者制」の導入です。

◇複数指揮者制とは？

複数指揮者制とは「1 学年に複数の指揮者を置き、演奏会を分担して指揮する制度」のことです。

従来の青フィルは、一部の例外を除いて指揮者は各学年に 1 名ずつ置かれていました。そして、外苑祭コンサートは 2 年生の指揮者が常任指揮者として全ての曲を担当し、定期演奏会で取り上げる曲は常任指揮者と下級生の指揮者が指揮する仕組みとなっていました。

これに対し、1998 年度から導入された複数指揮者制度では、外苑祭コンサートを 2 年生の指揮者 2 名が担当し、定期演奏会は上級生 2 名と下級生の指揮者のうち 1 名が指揮することになりました。また、1998 年度、1999 年度の「常任指揮者－正指揮者－指揮者」の 3 階層制を経て 2000 年度からはそれまでの常任指揮者制から上席指揮者制に移行し、指揮者の分業制が確立されました。

◇複数指揮者制の特徴

1997 年度までの常任指揮者制では、1 年生で指揮者になって 2 年生で常任指揮者である 3 年生とともに定期演奏会を担当し、外苑祭は一人で全曲を指揮し、3 年生として迎える定期演奏会では新たに指揮者となった 2 年生と一緒に指揮を行うことが基本となります。そのため、奏者として演奏会に出演する機会は減るものの、指揮者として一貫した音楽作りが可能になるという利点があります。

一方、複数指揮者制は、演奏曲目の数に制約があるため、一人の指揮者が担当する曲数が常任指揮者制の場合に比べて減るという欠点があります。しかし、指揮者が演奏者として舞台に登場する機会が増えること、あるいは同じ学年に同輩の指揮者がいることで互いに切磋琢磨するといった好ましい特徴があります。さらに、演奏者にとっても、より多くの指揮者の下での演奏することは、一人の指揮者とともに演奏する場合と異なる経験を重ねられ、より幅広い音楽上の体験が可能になることが予想されます。

なお、1998 年度から 2012 年度までの 15 シーズンは代表顧問も外苑祭コンサートでの指揮者を務めたため、この期間の外苑祭コンサートには常時 3 名の指揮者が登場し、それぞれ 1 曲ずつを指揮することになりました。

◇過去 25 シーズンの指揮者の顔触れ

常任指揮者制時代の 1989 年度から 2013 年度までの 25 シーズンの指揮者の一覧は**表 1** の通りです。

表 1　過去 25 シーズンの指揮者の一覧（1989 年度から 2013 年度）

2013 年 8 月 31 日現在

<table>
<tr><th>年度</th><th>常任指揮者</th><th colspan="2">上席指揮者</th><th colspan="2">正指揮者</th><th colspan="2">指揮者</th></tr>
<tr><td>1989</td><td>倉田剛吉</td><td colspan="2" rowspan="11"></td><td colspan="2"></td><td colspan="2">山田光洋</td></tr>
<tr><td>1990</td><td>山田光洋</td><td colspan="2">室智文</td><td colspan="2">横堀慎二</td></tr>
<tr><td>1991</td><td>横堀慎二</td><td colspan="2">堀江尚之</td><td colspan="2">岩崎洋介</td></tr>
<tr><td>1992</td><td>岩崎洋介</td><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="2">鈴村裕輔</td></tr>
<tr><td>1993</td><td>鈴村裕輔</td><td colspan="2">和田義之</td></tr>
<tr><td>1994</td><td>長嶋憲治</td><td colspan="2">和田義之</td><td colspan="2">美馬俊喜</td></tr>
<tr><td>1995</td><td>美馬俊喜</td><td colspan="2" rowspan="3"></td><td colspan="2">石川徹</td></tr>
<tr><td>1996</td><td>成毛秀行</td><td colspan="2">小森景</td></tr>
<tr><td>1997</td><td>小森景／川原明宏</td><td colspan="2">三枝一峰</td></tr>
<tr><td>1998</td><td>川原明宏</td><td colspan="2">三枝一峰</td><td colspan="2">高倉彩</td></tr>
<tr><td>1999</td><td>高倉彩</td><td colspan="2"></td><td>齋藤祐仁</td><td>田崎孝典</td><td>堀越まき</td><td>村尾雄太</td></tr>
<tr><td>2000</td><td rowspan="13"></td><td>堀越まき</td><td>村尾雄太</td><td colspan="2" rowspan="13"></td><td>大部恵美</td><td>山口大悟郎</td></tr>
<tr><td>2001</td><td>大部恵美</td><td>山口大悟郎</td><td>小原道子</td><td>吉田拓人</td></tr>
<tr><td>2002</td><td>小原道子</td><td>吉田拓人</td><td>森詩織</td><td>山下隆志</td></tr>
<tr><td>2003</td><td>森詩織</td><td>山下隆志</td><td>中川愛子</td><td>中村静帆</td></tr>
<tr><td>2004</td><td>中川愛子</td><td>中村静帆</td><td>見城志乃生</td><td>高橋彩</td></tr>
<tr><td>2005</td><td>見城志乃生</td><td>高橋彩</td><td>中澤弘子</td><td>西村新</td></tr>
<tr><td>2006</td><td>中澤弘子</td><td>西村新</td><td>齊藤美海</td><td>堀仁美</td></tr>
<tr><td>2007</td><td>齊藤美海</td><td>堀仁美</td><td>白土昴</td><td>渡辺恭祐</td></tr>
<tr><td>2008</td><td>白土昴</td><td>渡辺恭祐</td><td>坂井愛梨</td><td>永田理恵</td></tr>
<tr><td>2009</td><td>坂井愛梨</td><td>永田理恵</td><td>山口桃介</td><td>高橋沙奈衣</td></tr>
<tr><td>2010</td><td>山口桃介</td><td>高橋沙奈衣</td><td>長根尾貴仁</td><td>佐藤和佳菜</td></tr>
<tr><td>2011</td><td>長根尾貴仁</td><td>佐藤和佳菜</td><td>大沢明瑠</td><td>中水樹良</td></tr>
<tr><td>2012</td><td>大沢明瑠</td><td>中水樹良</td><td>流真理子</td><td>西拓音</td></tr>
<tr><td>2013</td><td>流真理子</td><td>西拓音</td><td colspan="2">未定</td></tr>
</table>

（以上、敬称略）

上述のように、常任指揮者制のも複数指揮者制にもそれぞれ利点、欠点があります。しかし、現在の青フィルの発展に寄与してきた要因の一つが複数指揮者制であり、今後も、「年間曲」とともに制度面で青フィルの一層の飛躍を支えることが期待されます。